岩手日報　2015年（平成27年）7月20日（月曜日）

建築分野に海外の風

盛岡の久慈設計

ベトナム人3人採用

技術者育成・確保に力

盛岡市紺屋町の久慈設計（久慈竜也社長）は、20代のベトナム人技術者3人を初めて採用した。少子高齢化に加え、大学の建築学科がない本県では建築設計技術者の育成・確保が課題となっており、技術の「継承者」として海外に人材を求めた。なり手が少ない設備・構造設計分野の養成に特に力を入れ、資格取得をサポートする。「日本の高い技術を学び、会社に貢献したい」と意欲を持って来県した若者の存在が、職場に新風を吹き込んでいる。

ベトナムから久慈設計に入社した（前列左から）レ・ウワン・ダイさん、ヴォ・ディン・カーさん、レ・ティ・チュック・ウィンさん。人材不足が課題となる中、外国人技術者の育成に乗り出した＝盛岡市紺屋町

入社したのはヴォ・ディン・カーさん(24)、レ・ウワン・ダイさん(23)、レ・ティ・チュック・ウィンさん(24)。いずれも日本語はまだつたないが、ベトナムの大学で建築を学び就業経験もある。

6月1日に入国し東京都内で研修した後、同月半ばから本社建築設計部の研究員となった。当面は設計作業の補助をしながら、日本語や資格試験の勉強に励む。

唯一の女性、ウィンさんは「皆さんが熱心に教えてくれる。頑張って打ち込む」と意欲を燃やす。

外国人技術者の採用を考えたのは2年ほど前。同社は本社所在地などがネックとなり、人材確保に苦慮してきた。特に電気や給排水などの設備設計や構造設計は生活と密着した重要分野だが、デザイン部門に比べてなり手が少ないことが課題だった。

事態打開のため着手したのが、アジア国際交流支援機構（本部東京都）を通じた人材発掘。建築分野で専門技術者を外国人に求める動きはまだ多くないが、同機構に登録していた3人を現地で面接し、意欲的な姿勢や勤勉な国民性に期待して長い目で育てることに決めた。

3人の目標は1級建築士の資格取得。まずは2級建築士や建築設備士を目指し、実務経験を積む。

県によると、本県の近年の2級建築士の新規登録者は減少傾向。業界も成長に注目する中、カーさんは「日本の技術は高い。難しいが1級建築士を目指す」、ダイさんも「一生懸命勉強し、会社に貢献

い。

久慈

定着

が、彼

（海

術者が

高く

社と

先輩

び、

アッ

本人

ー精

磨して

する。

建築士の資格

1級、2級、木造の3種類があり、設計や工事監理できる建築物の規模が異なる。例えば、延べ床面積500平方㍍を超える学校や病院は1級建築士の資格が必要となる。試験は学科と設計製図があり、受験資格には、学歴に応じた実務経験年数が定められている。建築設備士は電気や空調など近年高度化する設備設計について建築士に助言できる。